

(様式)

令和7年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立吉川中学校
------	-----------

1 学校教育目標

すすんで学び続け 心身ともにたくましい気概を持った生徒の育成

2 本年度の重点目標

将来にわたって学び続ける姿勢を身につけさせながら、多少の困難にもひるむことなく乗り越えて行こうとする気概をもった生徒の育成。

生徒が主体となる学習活動の実践の継続。生徒の個性と能力を発揮させる教師、ワークライフバランスのとれた教師の育成。

校区小学校との連携の実践を積み上げながら、小中一貫教育について、地域・保護者への周知や理解を進める。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	①協同的な学びの場面を取り入れた、主体的に学ぶ授業づくり ②基礎基本の取得に重点をおき、個別最適な学びの場面を取り入れたわかる授業の創造	①話し合いや意見交流、学び合いの場面を多く取り入れた授業を実践している。関心意欲三者平均76%内容理解84%となっている。 ②授業者がタブレットをはじめとするICT機器を活用しての授業実践を継続している。また、昨年度から新しいAIDリルが導入され、授業の中や宿題として活用している。また、ワークなどの副教材も購入し、基礎基本をしっかり学ぶことができた。	A	○各単元での学習内容や効果的な学びの方法等について、生徒がICTの活用場面を取り入れた授業実践を積み上げ、教員同士の情報交換や互いの授業公開を行いながらスキルアップを図る。また、生徒同士の話し合い活動を多く取り入れ、生徒が積極的に授業に参加できるように工夫する。 ○昨年度から三木市に導入されたAIDリルを効果的に活用し、生徒個々の個別最適な学びにつなげ、関心意欲の向上を図る。また、ワーク等も購入し基礎基本の取得に重点を置いて指導していく。
生徒指導	①生徒理解に基づいた組織的な不登校対応(サポート教室の運用) ②いじめ撲滅のため、保護者や関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめ防止と早期発見に取り組む	①規範意識 学校評価96% 学校が楽しい88% 教師の声掛け80% など、日常の開発的生徒指導の取り組みの成果が表れている。また、昨年度と比べて、生徒・保護者とも数値が上がっており、安定した学校生活に教職員の指導が寄与している。 ②小学校と互いに情報交換が行えている。校内適応教室への職員の配置により、登校機会が増え改善傾向となった生徒もあるが、個別の対応にはまだまだ課題が残る。	A	○小学校との定期的な情報交換とその共有を継続し、問題行動や不登校対応について、早期に適切な対応ができるよう、今後も組織的な取り組みを進める。 ○生徒の活動に随行しながら、より多くの目で生徒を見守り、適切な指導や支援、声掛けを継続しながら生徒・保護者との相談体制を強化する。より良い変容が見られた時にその内容を保護者と確実に共有できるようにこまめな連絡を欠かさない。
特別活動	①生徒が主体的に取り組む学校行事の充実及び精選(小中合同体育フェスティバル) ②地域と連携した様々な体験活動への積極的な参加(三世代交流ゴルフ等)	①今年度から始まった小中合同体育フェスティバルでは、生徒会を中心に中学生が主体的に動き、小学生をリードした。 ②小中合同体育フェスティバルでは、地域のスポーツクラブ21やまちづくり協議会と連携し、昨年度に引き続き、生徒が考えた種目を共催種目として行った。 ③教職員とともに生徒会が主体となって全校生で生活のきまりの見直しや改善を行った。	B	○小中の児童生徒の交流の機会を増やすとともに、中学生が良きリーダーとなり更に小学生を引っ張って行く機会としたい。また、今年度始まった小中合同の体育フェスティバルでは、今回の改善点を踏まえ、生徒会と児童会が更に連携し、小中一貫教育をもっと前に進めていきたい。 ○生徒会を中心に、絶えず校則の見直しをはかり、意見が言える生徒を増やしていきたい。
道徳教育 人権教育	①合同研修をととした小中教員の授業見学及びスキルの向上(授業交流) ②道徳の授業をはじめ、全教育活動を通じていじめ防止教育の徹底	①生徒自ら発言することに抵抗感も少なく、すすんで意見を発表し、周囲もその意見に真摯に耳を傾け、授業を通して考え方に変容が見られる場面も多かった。また、小学校で教えていただいた先生が中学校で授業をしていただいたので、よりスムーズに授業を受けることができた。 ②PTA主催の研修会を実施したり、長期休業中に道徳副読本を持ち帰り感想を募るなど、親子で身近な人権課題について考える場を設定することができた。また、三木市人権・同和教育研究大会で本校PTAが人権の取り組みを発表することができた。	A	○道徳授業において、その振り返りの際に自己の振り返りや自分の言動を見直す機会を設けるとともに、生徒にどのような変容があったのかを、通信等に掲載し保護者に周知する。 ○他を認めその存在を大切に思えることは、本校生徒の最も誇れる点である。今後もその指導を継続していく。 ○小中の教師が、それぞれ道徳の授業研究を行い、小中一貫した人権教育を進めていく。
特別支援教育	①コーディネーターを中心に、生徒の特性や背景を踏まえた組織的指導の充実及び教職員の研修 ②校区小学校、学級等との交流を通じた学びの充実(小中交流会)	①特別支援学級各担任と指導補助員とが連携した支援を継続中である。また、個に応じた支援の充実のため、学校生活支援教員とも情報共有を密にしている。 ②小学生を招いての交流会を行い、事前準備から会の司会進行など、中学生がよくリードし先輩としての自覚の醸成を図った。また、次年度進級してくる児童の情報を小中で絶えず交換している。	B	○交流学級生との交流の場面を増やししながら、将来の自立に向けた取り組みを継続する。 ○生徒・保護者の願いを受け止め、SC・SSW・学校生活支援教員による、より専門的な立場の見立てを加味した長期的な支援計画を全職員で共有し、日々の支援に取り組む。 ○今後、更に小中の情報交換を密にしていく。
家庭・地域(校区小学校)との 連携	①小中交流行事をはじめとした、学校からの積極的な情報発信 ②小中一貫教育を見据えた校区小学校との交流実践(教員・児童生徒)	①学校HPや学校通信を通して、教育活動の情報発信を行っている。学校評価92%であった。昨年度より大幅に向上した。 ②小中一貫教育推進実践校として、3回の合同研修会や児童生徒の様々な交流を行ってきた。教員同士についても9年間を見通したカリキュラム作りに取り組む中で、児童生徒の学習課題の共有や授業交流等を行い実践を積み上げてきた。更に、本年度は小学校の授業を複数回見学したり、講師の先生の講義と一緒に聞くなど、より小中の授業交流ができた。また、学校運営協議会発信の「コミュニティ・スクール通信」を今年度も2回発行してもらった。	A	○学校HP、特に学年のページの充実を図り、日常の教育活動の様子を広く発信する。すぐるの有効活用を検討する。 ○総合的な学習の時間の充実のため、小学校と連携することに加え、学校運営協議会を通して地域人材の活用を推進する。特に昨年度から始まった「よかわを知る授業」を更に研究して進めていきたい。 ○小中一貫教育の推進とその周知のため、児童生徒の交流活動をより活性化させ、生徒から家庭への情報発信につなげる。また、定期的に行っている小中の交流会を年間行事に組み入れていく。
教職員の育成	①自主的な授業実践研修会による指導力の向上 ②勤務時間の適正化を図りワークライフバランスのとれた教職員の育成	①SGIによるカウンセリング研修、全生徒へのカウンセリング・アンケートを実施し生徒理解に努めるとともに、生指委員会や職員会議にて情報の共有を図り同歩調での指導に努めた。また、今年度は、カウンセリングウィークがない3学期にもアンケートを実施し、生徒理解に努めた。 ②平日1回、土日いずれか1回のノー部活デーの完全実施(学校だよりにも定時退勤日を記載)により勤務時間の適正化に努めている。	B	○学方育成三木モデルの推進をねらいとした授業研究や研修の機会を設定する。また、授業における生徒のICT活用実践を積み上げる。 ○部員数をはじめとした状況を他校と共有しながら、一年半後に行われる部活動の地域移行を見据えた取り組みを進める。また、地域の指導者としてより多くの教師が協力できる体制を構築する。 ○土日が大会等となった場合の平日の部活動休業日を確実に設けるなど、引き続き職員の勤務時間の適正化に努める。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

自己評価の方法はおおむね適切である。
 ・教職員・保護者・生徒という三者の立場からのアンケート結果をもとに、全職員で段階を踏んでいて考察されているため、評価が数値だけのものではなく、実態に即した評価となっている。
 ・オープンスクール等、広く学校を公開する機会、教職員と保護者がコミュニケーションをとる機会を増やし、その更なる連携に努めてもらいたい。
 ・小中一貫教育を中心に据え、小中の交流活動が活発に行われていたことは評価できる。また、昨年度から学校運営協議会の提案により、中学校で「ふるさと吉川を知る」授業(1年:商業、2年:農業、3年:歴史)が展開されている。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、より多くのゲストティーチャーを迎え、吉川ならではの取り組みが行われている。また、3年生には座学だけでなく、より歴史を知る意味でフィールドワークを取り入れ、座学で学んだ歴史的な場所を実際に訪れる学習を行うなど、今まで以上に、ふるさと吉川を知る学習が子ども達にとって意義深い授業になっていることが評価できる。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>A評価は適切である。 ・オープンスクール(授業公開)の様子を見ると、生徒が落ち着いて前向きに集中して学習している様子がうかがえた。今後、生徒の活発な意見交換があるなど、生徒が主体となる学習活動が展開される授業の更なる構築に努めてもらいたい。 ・三木市が取り組みを進めている「個別最適な学び」を実践する意味でも、AIDリルを授業の中で取り入れ、繰り返し基礎を学習することを推進していただきたい。また、家庭学習にも生かしてもらいたい。 ・小中一貫教育を進めるにあたって、小中の連携を密に取っていただきたい。特に、小中の教職員間の授業研究など活発に行っていき、研究を深めていただきたい。</p>
<p>A評価は適切である。 ・校則の見直しを生徒会で取り組まみ、時代の変化に合わせ子どもたちが考え、変えるべきところは変えていく取り組みをより一層進めていってほしい。特に、生徒の話し合いの場を多く持たせてほしい。 ・不登校対策については、学校に行きにくい児童生徒に関して、小学校と絶えず情報交換をしながら進めてほしい。また、保護者や生徒の内面に寄り沿った指導を継続し、引きこもりがないように、全教職員で共通理解を図りながら指導に当たってほしい。</p>
<p>B評価は適切である。 ・小中一貫教育を推し進めて行くうえで、今年度から始まった小中合同体育フェスティバルを交流の主と位置づけ、来年度は、今年度以上に生徒の意見を多く取り入れていただきたい。また、生徒が主体的に行事に参加できる体制を構築していただきたい。 ・校則に関しては、生徒自らが考え、生徒会を中心に絶えず見直しを行い、自分たちの学校は自分たちで創る意識を持たせていただきたい。</p>
<p>A評価は適切である。 ・道徳のスキルアップを目指して、多くの教師が道徳授業に携わり、研修を深めていっていることは評価できる。また、今後も道徳授業を通して生徒の変容をとらえながら、道徳的判断力や実践力の向上を目指した取り組みを進めていっていただきたい。 ・人権同和学習において小中で授業研究をしたり、小学生と中学生と一緒に人権学習が学べる場を設定したりして取り組みを更に進めてもらいたい。</p>
<p>B評価は適切である。 ・現在なされている教員と指導補助員、また、生活支援教員との連携を強固なものにしながら、生徒の将来的な自立に向けた取り組みが組織的に行われることを期待する。また、SC,SSWとも連携し、場合によってはケース会議をするなど、きめ細かい配慮をしながら進めていただきたい。 ・今後も要支援生徒が増えていくことが考えられるので、関係機関とも連携を密にしながら一人一人の生徒のニーズにあった教育活動を進めていただきたい。また、外国籍の生徒も増加しているので、支援の仕方を教員間で共通理解をはかりながら進めていってほしい。</p>
<p>A評価は適切である。 ・学校HPの充実が図られていることにより、学校における教育活動の実態や学習内容の情報発信が家庭に限らず「地域に開かれた学校」を目指した取り組みとして評価できる。 ・学校通信だけでなく、学級通信を発行しているクラスが多くあり、学校通信だけでは紹介できない学級の様子がよくわかるので、今後も継続して発行していただきたい。 ・学校運営協議会で提案された「よかわを知る」授業を通して、今まで以上に子供たちが地元を理解し、地元が好きな教育を推し進めていただきたい。</p>
<p>B評価は適切である。 ・ICTの活用能力や授業における効果的な使い方等、教職員の資質向上の取り組みを更に進めてほしい。 ・教職員の仕事量の増加及び多様化する職務の中で、ワークライフバランスに配慮しながら、心身の健康を保持するために勤務時間の適正化を更に図っていただきたい。 ・部活動の地域展開に関して、三木市における地域クラブ活動展開ガイドラインに沿って、地域の「スポーツクラブよかわ21」の方々と展開に関して議論を重ね前へ進めていってほしい。</p>

